

## 4. 夜久野末窯跡群の調査（2）

京都府立大学文学部考古学研究室

### 1. はじめに

福知山市夜久野町末、高内、日置に所在する末窯跡群は、京都府内でも屈指の古代須恵器窯跡群であり、100基を超す窯の存在が推定されている。東昭吾氏の調査成果を承け、2019年度から継続的に ACTR の調査として、その把握調査に取り組んできた。2019年度には、末窯跡群の分布の把握を目的に実地の調査をおこない、それぞれの窯跡の調査カードの作成をおこない、また夜久野町高内に所在する長者森古墳（京都府指定史跡）の三次元計測など、地域の文化遺産の記録化に取り組んだ。2020年度からは「末窯跡群を中心とした夜久野地域の文化遺産・地質の調査と活用」というテーマで、窯跡については分布調査に加えて地質の検討も進め、窯が立地する理由を地質の面から検討した。窯跡の調査と並行して、夜久野町化石・郷土資料館に所蔵されている古墳出土資料やその調査記録の調査もあわせておこなっている。その結果、これまで出土遺物が錯綜していた長者森古墳等の資料を確定することができた。こうした総合調査の成果は2022年度に刊行する予定であるが、ここでは、2021年3月に実施した窯跡の踏査結果について報告することとする。

広大な範囲に及ぶ末窯跡群のうち、その南半の大部分は、耕作が放棄された水田のある谷筋にある。山中に入る里道もすっかり荒廃しており、通行が困難な場所も多い。水田跡の周辺には、広葉樹が残された里山があり、谷奥には植林された杉林が広がるが、いずれも管理がなされない状況であると見受けられる。土砂の流出も進んでいると考えられ、遺跡の状況を早急に把握することが不可欠である。逆に、膨大な数の窯跡が手つかずのままに残されていると言うことができ、適切に扱うことにより、貴重な文化財としての評価が可能になるだろう。自然環境とともに窯跡群を調査し、評価することが急務であると考えられる所以である。

調査にあたっては、地元の高内地区自治会長の場善彦さん、日置地区自治会長西垣忠正さん、末地区自治会長広川忠昭さんにご協力をいただき、福知山市文化・スポーツ振興課の松本学博、鷲田紀子の両氏には調整を含めてお世話をいただいた。調査に同道していただいた東昭吾氏、小滝篤夫氏にも貴重な助言をいただいた。記して謝意を表したい。（菱田哲郎）

### 調査参加者

菱田哲郎・諫早直人（教員）

岡田大雄（博士前期課程）、池田野々花・小林楓・溝口泰久・湯浅美玖（4回生）

土井悠起・松田篤・守田悠・吉田祐太・吉永健人（3回生）

藤川聖起（2回生）

## 2. 既往の調査

夜久野末窯跡群は福知山市夜久野町に所在する奈良時代から平安時代にかけて稼働した須恵器窯跡群である。1966年の時点で20基ほどの窯が確認され、1994年の高内鎌谷遺跡の発掘調査では、竪穴式住居跡、掘立柱建物跡とともに2時期にわたる灰原が検出されたほか（夜久野町教委1994）、1997年の日置地区末5号窯の発掘調査では末窯跡群内で最も古い7世紀前半の窯がみついている（夜久野町教委1997）。窯の総数は2013年の『夜久野町史』の時点で53基にまで増えていたが（菱田ほか2013）、近年、東昭吾氏により精力的に分布調査がおこなわれ、140基を超える一大窯跡群であることを明らかとなった（東2018）。

京都府立大学文学部考古学研究室では、東氏の協力を得て2020年より窯跡群を踏査し、窯跡の位置と現状の記録をおこなっている（京都府立大学文学部考古学研究室2021）。昨年度はナゲ地区で5基、畑ヶ谷地区13基、日ノ本南地区7基、日ノ本北地区5基、末親谷地区10基、広畑地区3基、関垣地区7基、日置地区3基、鎌谷地区2基、末親谷地区5基、高内親谷地区14基の計77基の踏査をおこない、畑ヶ谷地区では新たに1基の窯跡を発見した。またナゲ地区と関垣地区では露頭した窯体断面を確認した。

## 3. 調査の概要

### (1) 調査方法

昨年度と同様に、窯跡周辺の立地状況や現状を把握するために、東氏の案内のもと3日間の踏査をおこなった。一つ一つの窯跡位置を携帯用GPS GARMIN（OREGON 750TJ/650TCJ）で記録するとともに、模式図を用いた立地の記録や（図4～8）、現状での窯体や前庭部平坦面の計測をおこなった。なお、遺物の採集は甕や壺などの貯蔵具のほか、既存の器種構成を更新する遺物などに必要最小限に留めている。今回は試験的に一部の窯で360°カメラを用いた撮影をおこなった。昨年度の報告と同様に、窯の名称については東氏の報告（東2018）にもとづく。

### (2) 調査行程

調査は昨年の踏査で未着手の支群（大町田・トウデン）を中心に踏査をおこなったA班、昨年度調査した支群にて、調査が及ばなかった窯を中心に踏査をおこなったB班に分かれる。

以下、それぞれの行程を記す。



写真1 踏査風景



写真2 地形変化点の計測

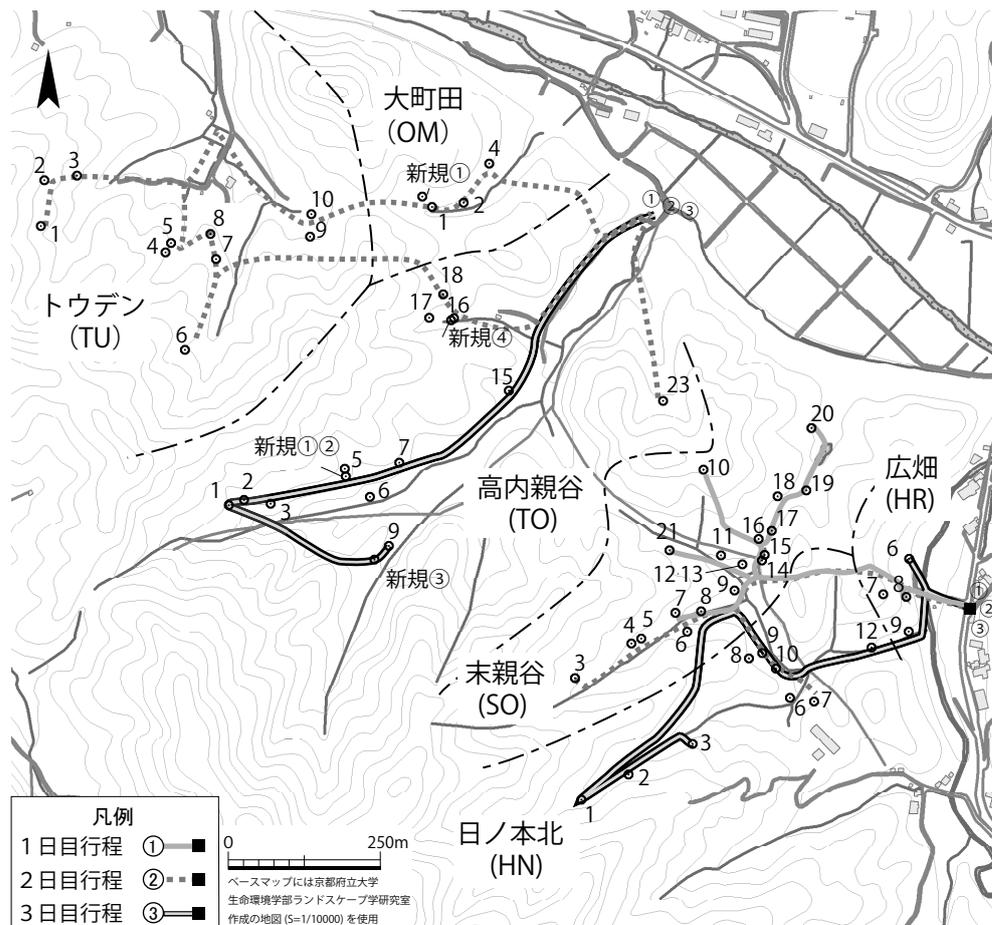


図2 踏査行程

- 1日目 A班：広畑8号窯、末親谷10～20号窯、  
 B班：末親谷6～9、21号窯、日ノ本北5号窯
- 2日目 A班：大町田1・2・4・新規1・2号窯、トウデン1～10号窯、高内親谷16・  
 23・新規4・5号窯  
 B班：広畑6号窯、末親谷1～4号窯、日ノ本北6～10号窯、
- 3日目 A班：高内親谷1～3・5～7・9・15・17・18・新規1・2・3号窯  
 B班：広畑7～9号窯、日ノ本北1～3・12号窯

A班は東氏の案内のもと、末親谷・高内親谷・大町田・トウデン地区の調査をおこなった。その結果、大町田地区で2基、高内親谷地区で5基の新規窯跡を発見し、また遺物も多数採集した。窯の評価に関しては次章で詳細に述べる。B班は広畑・末親谷・日ノ本北地区にて踏査をおこなった。特に広畑・日ノ本北地区では耕作に伴った地形改変などによって、現在確認できない窯跡も存在したが、その他の支群では窯体や灰原の露頭を確認した。調査した窯の現況は表1のとおりである。

(小林楓)

表1 窯の現況（東2018をもとに踏査成果を反映して作成）

| 地区名  | 窯番号                               | 備考   | 採集遺物                               |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 時期 |      |          |      |
|------|-----------------------------------|--|------------------------------------|----|----|----|----|---|---|---|---|---|----|------|----------|------|
|      |                                   |  | 蓋杯                                 | 杯A | 杯B | 皿A | 皿B | 蓋 | 椀 | 椀 | 壺 | 甕 |    |      |          |      |
| 日ノ本北 | 1                                 | 窯体、前庭部は確認できなかったが、崖面で灰原層を確認。                |                                    |    | ○  |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 2                                 | 窯体、前庭部は確認できなかったが、崖面で灰原層を確認。                |                                    |    |    | ○  | ○  |   | ○ | ○ |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 3                                 | 山の斜面全体に遺物が散布するため、窯は頂部に存在すると考えられる。          | ○                                  | ○  | ○  | ○  | ○  |   | ○ | ○ | ○ |   |    |      | 8c後半     |      |
|      | 5                                 | 狭い平坦面が残る。窯体は確認できないが遺物を採集。                  | ○                                  | ○  |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 6                                 | 窯体、前庭部は確認できなかったが、遺物を採集。                    |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 7                                 | 地形が大きく改変されているが、遺物を採集。                      |                                    |    |    |    |    |   | ○ | ○ |   |   |    |      | 8c中      |      |
|      | 8                                 | 前庭部を確認、遺物の散布は見られない。                        |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 9                                 | 窯体の正確な位置は不明だが、平坦面と遺物の散布を確認。                | ○                                  | ○  | ○  |    | ○  | ○ |   |   | ○ |   |    |      | 8c中      |      |
|      | 10                                | 窯体、前庭部は確認できなかったが、斜面に遺物の散布を確認。              |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 12                                | 窯体、前庭部は確認できなかったが、斜面に遺物の散布を確認。              |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○  |      | ?        |      |
|      | 末親谷                               | 1  | 確認できず。                             |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      |          | ?    |
|      |                                   | 2  | 3号窯の南側反対斜面に位置する。窯体と思われる溝状の落ち込みを確認。 |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      |          | ?    |
| 3    |                                   | 前庭部と思しき平坦面を確認。遺物は未採集。                      |                                    |    | ○  |    |    | ○ |   | ○ |   |   |    |      | 8c中      |      |
| 4    |                                   | 窯の位置は不明だが、斜面に遺物の散布を確認。                     |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   | ○ | ○  |      | 8c中      |      |
| 6    |                                   | 窯体と推定されるくぼみと平坦面を確認。さらに東に溝状の窪みあり、新規窯の可能性あり。 |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   |   | ○  |      | ?        |      |
| 7    |                                   | 平坦面と溝状にやや窪む地形がみられる。直下に遺物が集中的に散布する。         |                                    |    | ○  | ○  | ○  | ○ |   | ○ | ○ | ○ | ○  | ○    | 8c中      |      |
| 8    |                                   | 窯の東側壁が露頭、前庭部は地形改変により確認できず。                 |                                    |    | ○  |    |    |   | ○ |   |   |   | ○  |      | 8c中      |      |
| 9    |                                   | やや急な平坦面を確認、斜面断面に須恵器が確認できる。                 | ○                                  | ○  |    |    |    |   | ○ |   |   |   |    |      | 8c中      |      |
| 10   |                                   | 平坦面と斜面に遺物の散布を確認。                           |                                    |    |    |    | ○  |   | ○ |   |   |   | ○  |      | 8c中      |      |
| 11   |                                   | 遺物の散布を確認。                                  |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  |      | ?        |      |
| 12   |                                   | 前庭部と思しき平坦面を確認。須恵器の散布あり。                    |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
| 13   |                                   | 12号窯と同地点。                                  |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
| 14   |                                   | 遺物の散布を確認。                                  |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  |      | 8c中      |      |
| 15   |                                   | 窯体らしき落ち込みはみられない。須恵器採集。人為的な平場を確認。           |                                    |    | ○  | ○  |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
| 16   |                                   | 人為的な平坦面を確認、斜面下に遺物の散布がみられる。                 |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    | ○    | ?        |      |
| 18   |                                   | 遺物の散布がみられる。平坦面と窪みが確認され、窯体を想定できる。           |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   |   | ○  | ○    | 8c中      |      |
| 19   |                                   | 遺物の散布がみられる。                                |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   |   |    | ○    | 8c中      |      |
| 20   |                                   | テラス状地形を二か所確認。少量であるが遺物が散布する。                |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   |   | ○  |      | 8c中      |      |
| 21   |                                   | 平坦面と遺物の散布がみられる。                            |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
| 広畑   |                                   | 6  | 窯体、前庭部は確認できなかったが、斜面で遺物の散布を確認。      | ○  | ○  |    |    |   |   |   |   |   | ○  | ○    |          | 8c後半 |
|      |                                   | 7  | やや傾斜を持つ平坦面を確認。斜面下には遺物の散布がみられる。     | ○  | ○  | ○  |    | ○ |   |   |   |   | ○  | ○    |          | 8c後半 |
|      | 8                                 | やや傾斜を持つ平坦面を確認。斜面下には遺物の散布がみられる。甕多数採集。       |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   |   | ○  |      | 8c後半     |      |
|      | 9                                 | 平坦面を確認。遺物の採集はできなかった。                       |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
| 高内親谷 | 1                                 | テラス状地形と遺物の散布を確認。                           | ○                                  | ○  |    |    |    |   |   |   |   | ○ |    |      | ?        |      |
|      | 2                                 | 平坦面あり、尾根までの距離が短く、小規模な窯を想定。遺物を採集。           | ○                                  | ○  | ○  |    | ○  |   |   |   |   | ○ | ○  |      | 9c末～10c初 |      |
|      | 3                                 | 灰原が露頭する。遺物の散布を確認。                          | ○                                  |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 5                                 | 斜面崩落部分に遺物がみられる。                            | ○                                  | ○  | ○  | ○  | ○  |   |   |   |   |   |    |      | 9c末～10c初 |      |
|      | 新規①                               | 5号窯と同じ斜面、溝を挟んだ南東側に位置する。平坦面と遺物散布がみられる。      | ○                                  | ○  | ○  |    | ○  |   |   |   |   |   |    |      | 8c後半     |      |
|      | 新規②                               | 5号窯に近接し、新規①との間に位置する。平坦面と遺物の散布がみられる。        | ○                                  |    | ○  |    |    |   | ○ |   |   |   |    |      | 8c後半     |      |
|      | 6                                 | テラス状地形と灰原を確認。                              |                                    |    | ○  | ○  | ○  | ○ |   |   |   | ○ | ○  |      | 8c中      |      |
|      | 7                                 | テラス状地形と灰原を確認。                              |                                    |    | ○  |    | ○  |   |   |   |   |   | ○  |      | 8c中      |      |
|      | 9                                 | 川岸に灰原が露頭し、その先の平坦面に窯を想定できる。                 | ○                                  | ○  | ○  | ○  | ○  |   |   | ○ |   |   |    |      | 8c後半     |      |
|      | 新規③                               | 9号の上流に存在する。川底で遺物を採集。                       |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○  |      | 8c後半     |      |
|      | 15                                | 20) 須恵器散布/21) 窯体と推定されるくぼみを確認。窯壁を採集。        |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  |      | 8c中      |      |
|      | 16                                | 窯壁や遺物を採集。                                  |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  |      | 8c中      |      |
|      | 新規④                               | 16号窯の6.3m東へ移動した斜面に灰原が露頭する。須恵器、窯壁片を採集。      |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ |    |      | 8c前半     |      |
| 17   | 灰原層と遺物を確認。かなり広範囲に灰原が広がる。          |  |                                    | ○  | ○  | ○  | ○  |   |   |   | ○ |   |    | 8c後半 |          |      |
| 18   | 窯の痕跡はほとんど確認できないが、多量に遺物の散布が確認できる。  |  |                                    | ○  |    |    |    |   |   |   | ○ | ○ | ○  | ?    |          |      |
| 22   | 東氏窯とみられる落ち込み。遺物の散布                |  |                                    | ○  |    |    | ○  |   |   |   |   |   |    | 8c後半 |          |      |
| 23   | 前庭部と窯体と考えられるくぼみを確認。遺物が埋没した堆積層がある。 | ○  | ○                                  | ○  | ○  | ○  |    |   |   |   | ○ | ○ | ○  | 8c中  |          |      |
| 大町田  | 1                                 | 窯壁片と須恵器片を採集。開墾により地形改変がみられる                 |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  |      | 9c末～10c初 |      |
|      | 2                                 | 遺物が少量散布する。                                 |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  | ○    | 9c末～10c初 |      |
|      | 4                                 | 窯体の落ち込みとみられるくぼみを確認。遺物は未採集。                 |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 新規①                               | 平坦面と窯体らしきものを確認。須恵器散布あり。                    |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | 9c末～10c初 |      |
| トウデン | 1                                 | テラス状地形が二つ並ぶ。遺物は未採集。                        |                                    |    | ○  |    |    |   | ○ |   |   |   |    |      | 8c初      |      |
|      | 2                                 | 緩斜面とテラス状の張り出しを確認。遺物は未採集。                   |                                    |    | ○  |    |    |   |   |   | ○ |   |    |      | ?        |      |
|      | 3                                 | 急斜面に遺物の散布がみられる。須恵器散布あり。                    |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○  |      | ?        |      |
|      | 4                                 | テラス状地形と緩斜面を確認。広い範囲で遺物の散布が見られる。             |                                    |    |    |    |    |   |   | ○ |   | ○ | ○  |      | 8c初      |      |
|      | 5                                 | 5号窯に近接して新規の窯跡を想定できる。遺物採集。                  |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | ○  |      | ?        |      |
|      | 6                                 | テラス状地形を確認。遺物の散布がみられる。                      |                                    |    | ○  |    |    |   |   | ○ |   |   |    |      | 8c中      |      |
|      | 7                                 | テラス状地形を確認。窯壁片を採集。                          |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |    |      | ?        |      |
|      | 8                                 | 遺物の散布はみられるが、窯はすでに破壊されたか。                   |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ |    | ○    | 7c後半     |      |
|      | 9                                 | 窯壁を採集。灰原が露頭する。                             | ○                                  | ○  |    |    |    |   |   | ○ |   | ○ | ○  |      | 8c初      |      |
|      | 10                                | 緩斜面に窯を想定。谷を挟んだ平坦面で遺物を採集、作業場が想定できる。         |                                    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | ○  |      | ?        |      |

#### 4. 高内親谷地区新規発見窯

##### (1) 支群の概要

高内親谷支群は末窯跡群のうち最も多くの窯跡が確認されている支群である。尾根から流れる川沿いに31基が確認されており、8世紀中頃から後半にあたる遺物が採集されている（東2018）。昨年度は14基の窯跡の調査をおこない、今年度は未踏査のものを中心に調査をおこなった。

##### (2) 高内親谷新規①・②窯

**立地** 高内親谷支群の尾根筋西側斜面の高内親谷5号窯から5mほど東で窯体とみられる落ち込みと須恵器散布を伴う新規①窯を確認した。落ち込みは長さ2.1m×幅3.1mである。また、5号窯と新規①窯の間で長さ2.4m×幅2.5mの落ち込みを確認し、新規②窯とした。いずれも新規①・②窯の直下にも遺物の散布が認められており、5号窯由来の谷筋の遺物群とは分布を異にしている。新規①窯からさらに東方の緩斜面にも須恵器が散布しており、さらなる窯体の存在を想定できる。

**遺物** 新規①窯では皿(1)、杯A・B(3)、杯蓋(6)が採集された。かえりの屈曲から8世紀後半以降のものと考えられる。新規②窯では皿(2)、杯A、杯蓋、稜椀(4)が採集された。杯蓋は破片であるが、新規①窯採集品と同様のかえりの屈曲を有する。稜椀は口縁部が外反し、端部を内側に屈曲させ沈線を作り出す。隣接する5号窯では稜椀は採集されていないが、新規①・②窯ともに杯蓋の器形が共通するため、立地も考慮してこれらの新規窯跡についても5号窯と同時期の8世紀後半に位置づけたい。

##### (3) 高内親谷新規③窯

**立地** 高内親谷9号窯の南西方に位置する。窯を想定できる地形を見出せなかったが、川岸の斜面上や川底で須恵器を採集した。多量の遺物が散布する9号窯より上流に位置することから別の窯の存在が想定される。

**遺物** 年代を判断できる須恵器片は採集されていない。隣接する9号窯は8世紀後半頃と考えられており、これに前後する時期と推測される。

##### (4) 高内親谷新規④窯

**立地** 高内親谷16号窯の東方に隣接する。斜面に須恵器を包含した灰原に由来する黒い土

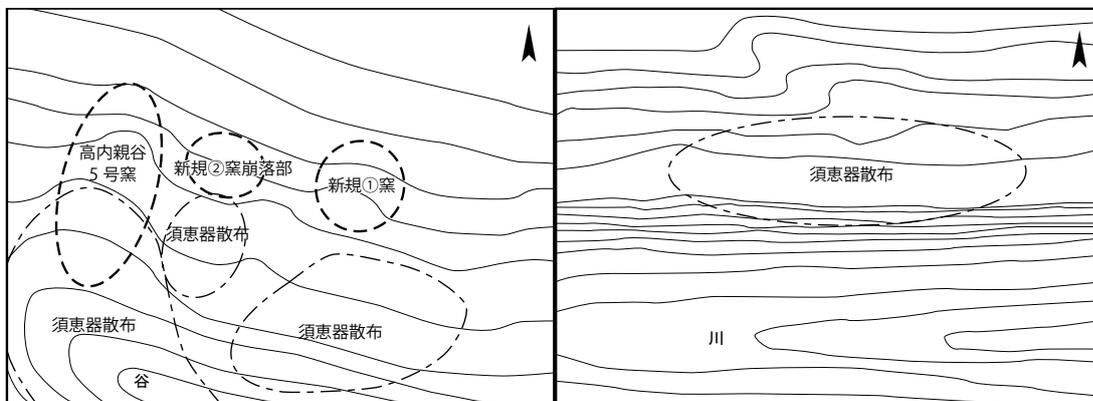


図3 高内親谷新規①・②窯の立地（模式図）

図4 高内親谷新規③窯の立地（模式図）

が露頭している。16号窯とは浅い谷を挟んで約6m離れているため別の窯と考えられる。遺物 杯蓋（7）を採集した。つまみをもち、体部が直線的で端部のみ屈曲するかえりのある器形であることから、8世紀前半に位置づけられる。（溝口泰久）

(5) 小結

高内親谷地区で8世紀前半の窯を2基、後半の窯を2基発見し、末窯跡群の支群の中でも最多の窯数を更新した。東氏の編年では末窯跡群の生産が最も活発な末Ⅲ期・Ⅳ期に該当する。（小林）

5. 大町田支群新規発見窯

(1) 支群の概要

末川南岸に形成される支群の中で最も北に位置する。谷を挟んだ両側に4基の窯が確認されており、隣接するトウデン・高内親谷地区より年代の下る10世紀前後の窯跡が発見された（東2018）。本研究室で調査をおこなうのは今回が初めてである。

(2) 大町田新規①窯

立地 大町田支群の南に向かって下る張り出し地形に挟まれた、若干谷状を呈する地形に幅4.3mの落ち込みと、東側の張り出す地形に3×3mの落ち込みを確認した。周辺に須恵器の散布がみられる。

遺物 椀（5）を採集した。底部の残るものは円盤高台である。底部調整を観察できる個体には糸切痕は確認されず、回転ヘラ切りにより底部を切り離したものである。また、体部と底部の境にはヘラを用いた調整の痕跡がみられる。近傍にある大町田1・2号窯で糸切り痕を有する円盤高台の椀が確認されており（東2018）、これと比較すると、本地点で採集したもの

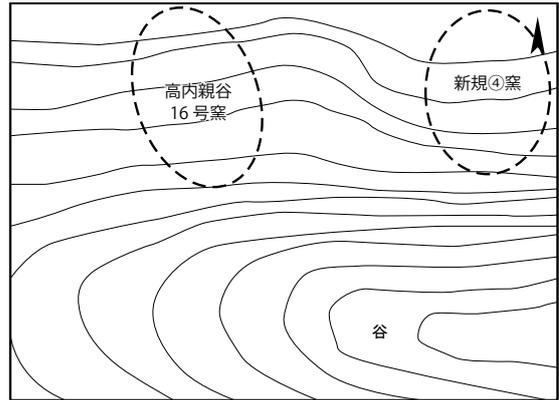


図5 高内親谷新規④窯の立地（模式図）

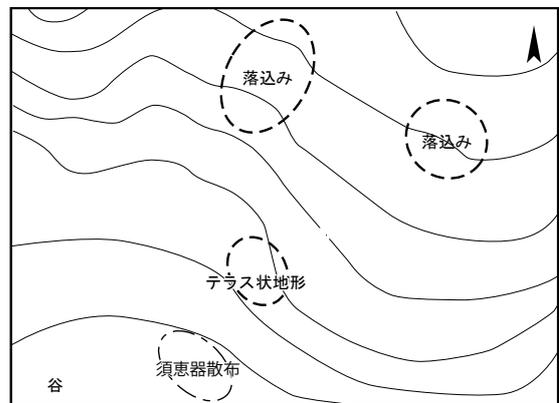


図6 大町田新規①窯の立地（模式図）

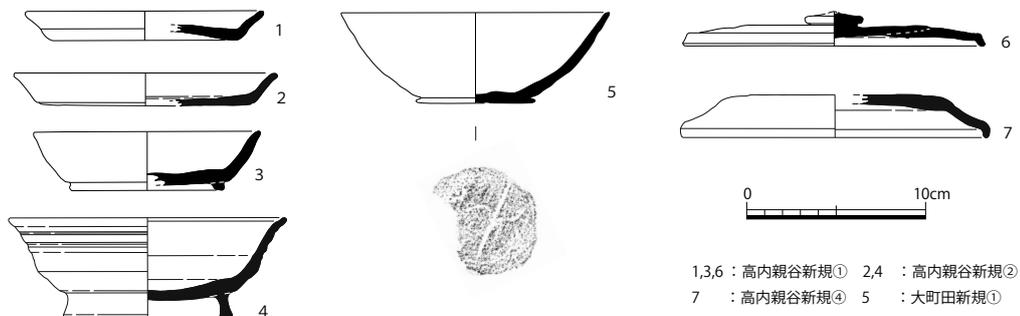


図7 新規窯跡採集土器 (S=1/4)

の方が高台がやや低い。糸切り痕のある円盤高台の椀を生産した窯に近接して、ヘラ切りの円盤高台の椀を焼いた窯が存在していたことになり、末窯跡群における当器種の受容を考える上で今回の採集品は重要である。10世紀を前後する時期に位置づけられよう。(溝口)

### (3) 小結

かねてから周辺の地区と年代を隔ることが指摘されていた(東 2018)大町田地区では、新たに10世紀頃の窯を1基発見した。これは東氏の編年では末窯跡群が終息するIX期に該当する(東 2018)。同じ支群の中で底部に回転ヘラ切りをもつ椀と糸切の調整痕をもつ椀が存在するという重要な発見をすることができた。(小林)

## 5. おわりに

末窯跡群の踏査をはじめて3年目となる。河道の浸食により失われた里道、行く手を遮る倒木や茨の繁茂、開けた土地に密生する笹など、踏査に対する困難さが年々増しているように感じるが、それでも自分の居る場所や目的の窯跡の場所がどこなのかをつかむのに苦勞をしていたのが、ようやくこの地の山野になじんできたように思う。そして、何よりも窯の立地の特徴もおぼろげながらつかめてきたように感じる。また、調査を通して、参加した学生の遺跡をみる力を高めるという教育的効果も、調査の成果として記しておきたい。

さて、今回は2年目の踏査の報告であるが、新規発見の窯跡も増えてきて、窯跡群の展開過程についても重要な資料を得ることもできた。分布調査の有効性を改めて認識する結果となっている。同時に数多くの窯跡が良好な状況で保存されていることが明らかになってきており、古代窯業生産史の解明にとって末窯跡群のもつ意義も大きくなっている。一方で、このように把握されつつある末窯跡群の重要性は、まだ十分に周知されてはおらず、市民に伝えることから活用の方策を探ることもこれからの大きな課題である。今後も調査を進めるとともに、その成果の普及や活用に向けた取り組みを進めていきたいと考えている。(菱田)

### 参考文献

- 東昭吾 2018『京都府福知山市夜久野町所在 末古窯跡群詳細調査報告書(1)―末古窯跡群詳細分布調査報告―』
- 石田志朗 2005「夜久野町の自然環境」夜久野町史編集委員会編『夜久野町史』第1巻 夜久野町
- 京都府天田郡夜久野町教育研究会 1966「土器と陶窯址」『郷土夜久野歴史篇 付地誌篇』
- 京都府立丹後郷土資料館 1976『丹波夜久野の文化財』
- 京都府立大学文学部考古学研究室 2021「夜久野末窯跡群の調査(1)」『京都府立大学文学部文学部歴史学科フィールド調査集報』第7号 京都府立大学文学部歴史学科
- 神野恵・森川実 2010「平城京の研究法 土器類」『図説 平城京事典』 柊風舎
- 夜久野町教育委員会 1994『高内鎌谷遺跡発掘調査概報』(夜久野町文化財調査報告第3集)
- 夜久野町教育委員会 1997『末5号窯発掘調査概報』(夜久野町文化財調査報告第6集)
- 夜久野町教育委員会 1999『京都府天田郡 夜久野町遺跡地図(補訂版)』(夜久野町文化財調査報告第9集)
- 菱田哲郎・崎山正人 2013「考古資料から見た夜久野の古代」夜久野町史編集委員会編『夜久野町史』第4巻 夜久野町